

働く高齢者 生き生き

岐阜・中津川の板金加工「加藤製作所」



製造現場で働く高齢者＝岐阜県中津川市駒場で

従業員の半数以上が六十歳以上という岐阜県中津川市のプレス板金部品の総合加工メーカー「加藤製作所」が、企業の社会貢献活動を支援する公益社団法人「日本フィランソロピー協会」（東京）の特別賞・人財ハーモニー賞を受賞した。急速な少子高齢化が進む地方都市の新たなビジネスモデルを提案している。（本田英寛）

従業員の半数60歳以上

「中津川市のような地方都市は生産人口が減り続けている。元気な高齢者に働いてもらえば地域の活性化につながると思った」と加藤景司社長（四七）は、高齢者の積極雇用を始めた経緯を振り返る。同市の高齢化率は二〇〇七年は25・6％、一五年に30・8％、一五年には34・3％に上昇すると推計され、超高齢化社会に向けて突き進んでいる。同社は〇二年、工場稼働率を向上させるため、「土曜・日曜はわしらのウィークデー」をキャッチフレーズに週末に働く高齢者を募集。百人以上の応募者から十五人を採用した。以来、採用者数を増やしてきた。

リーマンショックの影響で現在、工場は平日のみの稼働になっているが、従業員百人のうち六十歳以上が五十一人の十歳以上が十九人、最高齢は八十二歳だという。加藤社長は「お年寄りが年金をもらいながら働く。三世代によるワークシェアリングだ」と話す。〇七年は25・6％、一五年に30・8％、一五年には34・3％に上昇すると推計され、超高齢化社会に向けて突き進んでいる。同社は〇二年、工場稼働率を向上させるため、「土曜・日曜はわしらのウィークデー」をキャッチフレーズに週末に働く高齢者を募集。百人以上の応募者から十五人を採用した。以来、採用者数を増やしてきた。

最前線

「土曜・日曜はわしらのウィークデー」をキャッチフレーズに週末に働く高齢者を募集。百人以上の応募者から十五人を採用した。以来、採用者数を増やしてきた。

外部から雇用65% 地域貢献で表彰

65％は外部からの雇用だが、加藤社長は一般従業員と同じ仕事への従事に不安はなかったという。「工場内のバリアフリー化を進めていたことも大きい。高齢者は人生のベテランでいろんなノウハウを持っている。案ずるより産むがやすかった」という。

製造現場で勤務する高齢従業員第一期生の松井八重子さん（モ）は「六十歳で市内の会社を辞めてどうしようかと考えていたら、募集があったので応募した。働くことで生きがいを感じる。職場の若い人と話すのは楽しい」と笑顔。健康である限り今後も働き続けるといふ。

加藤社長は「高齢者は働くことで生き生きとした人生を楽しめる。会社はパート雇用なので人件費を抑制できる。地元の雇用を創出し、地域活性化に貢献している。いわば一石三鳥の試みだ」と胸を張る。